

# 下長中学校の環境教育

1. 名 称 「さわやかワークタイム」
2. 日 時 平成20年10月1日(水) 8:40~14:30
3. 学 年 第1学年(男子124人 女子99人 計223人)
4. 場 所 馬淵川(水辺の楽校)
5. ねらい
  - (1)地域を流れる馬淵川に親しむとともに、「水辺の学校」の役割や目的を理解する。
  - (2)馬淵川や水辺の楽校の自然を守る人々の存在と活動意義を理解する。
  - (3)水辺の楽校の環境奉仕作業を通じて、奉仕の精神を養う。
  - (4)共に活動する中で仲間同士の絆を深める。
6. 協力者
  - ・NPO水辺の楽校まべち 理事長 池田光則さん
  - ・NPO水辺の楽校まべち 山本幸夫さん
  - ・国土交通省八戸出張所 笹本さん
7. 主な活動内容
  - (1)講話①「馬淵川・水辺の楽校の役割」  
講師 NPO 水辺の楽校 理事長 池田光則さん
  - 講話②「馬淵川大堰と魚道について」  
講師 国土交通省八戸出張所 笹本さん
  - (2)水辺の楽校見学並びに清掃奉仕作業
  - (3)馬淵川自然観察及び河岸清掃奉仕作業
8. 成果と課題
  - (1)生徒の感想文に、「身近な自然に触れることができた」「ふだん気にとめていない自然を知ることができた」「自然を守るため、いろいろな人が努力していることが分かった」「このままでは自然が破壊される一方である」「みんなで守らなければならない自然なのに、これほどゴミなどが捨てられ悲しくなった」などの内容が書かれており、これらの感想文の内容からも初期の目的(ねらい)が達成された。
  - (2)本教育活動を通じて培われたことが、今後、一人一人の生徒または学級集団の生活面で活かされることを大いに期待したいところである。環境教育については、今後も計画的に取り組ませたいと考えている。
  - (3)地域の人材や地域にある自然を活用することによって、生徒は、より身近な問題として捉えることができたように感じた。今後も大いに活用したいと考える。
  - (4)今回は、総合の時間のまとめ取りということで時間を確保したが、単発的な活動に止まらず、日常におけるさまざまな機会(学校行事、教科指導等を関連を持たせながら)を捉えて、環境について子どもたち一人一人が「考え」「実行する」機会を設定していきたいと考える。

# さわやかワークタイム

## 馬淵川・水辺の楽校 環境整備

1年 組・ 番

名前

(1) 自分はどんな仕事をしたか～具体的に

どろあげ・ごみ拾い・草むしり

(2) 今回の活動に対する自己評価 ( A・B・C・D ) ←○でかこむ

①特にがんばったのはどんな仕事が

どろあげ

②もっとがんばれたと思うことは

水の中の草むしり

(3) 自分以外でがんばって活動していた人は誰か?～何人でも、具体的に

・岩澤美咲さん 私がいやだと思った仕事も、  
・母良田 桃香さん ... すずんがやっていた。  
・佐藤 まなえさん ... みんなをちゃんとまとめ、仕事もちゃんとやっていた。

(4) 活動から学んだことは何が (水辺の楽校、馬淵川、地域の自然について)

・水辺の楽校をそうじしに行くと、思っていたよりもとてもきたなくてびっくりしました。水の中に入っても、ドンドン、魚たちはここで生きているのだと思いました。でも、そのが、ちゃんとどろあげをして、水が通れるようにできてよかったです。  
・ごみ拾いをし、本ヤカなどがたくさんおちっていてすてた人はだめだと思いました。  
・私はどのようなことをしない、地球にやさしい人になりたいです。

(5) 馬淵川や水辺の楽校が20年後どんな場所になっていると思うか (予想・希望)

・今よりもよどんでしまっているかもしれない。でも、今日のような活動をやれば、きれいにしたいです。  
・20年後どうなっているかわからないけど、きれいな、人がたくさん来てくれる川であってほしいです。

(6) 協力していただいた方たち (池田さん・山本さん・笹本さん) への感謝の言葉

・ごみ拾いなどをしているときにアゲハのようちゅうなどを見つけ、みんなあまり見る姿のできないものを見せていただきました。これからもまわりのもの目をかけて、自然を大切に生活していきたいです。

# さわやかワークタイム 馬淵川・水辺の楽校 環境整備

1年 \_\_\_ 組・ \_\_\_ 番

名前 \_\_\_\_\_

(1) 自分はどんな仕事をしたか～具体的に

草と草を取った。  
ゴミ捨  
雑草とり

(2) 今回の活動に対する自己評価 ( A・B・C・D ) ←○でかこむ

①特にがんばったのはどんな仕事か

「草」を取ったこと。(草がなかなか抜けなかった)(今は色々な所について  
とんがった)

②もっとがんばれたと思うことは

雑草があまりたくさん抜けなかった。

(3) 自分以外でがんばって活動していた人は誰か?～何人でも、具体的に

佐知子... 草が抜けなかった所を抜いてくれたり、ゴミを積極的に  
捨てていた。

全員... どんなに汚れても頑張っていたし、歩くのがつかれても頑張っていた。

(4) 活動から学んだことは何か (水辺の楽校、馬淵川、地域の自然について)

初めて水辺の楽校に行ったけれど、あまりキレイではなく、雑草が多  
かったり、ゴミが落ちていたりしました。「も」や「草」が多く、泥も  
たくさんあって、とても大変でしたが、今回の活動によって、たくさん  
の人が水辺の楽校を楽しんでくれるのはいいなと思います。生  
き物たちにも住みやすい環境になってくれるといいなと思います。

(5) 馬淵川や水辺の楽校が20年後どんな場所になっていると思うか (予想・希望)

希望... 子供たちがたくさん遊んで、大人も「リ」ができる川になっ  
てほしい。植物&生き物たちが住みやすい環境。  
予想... たくさんの植物&生き物が住みやすい環境になっていると  
思う。

(6) 協力していただいた方たち (池田さん・山本さん・笹本さん) への感謝の言葉

普段は雑校に行けないう所にも連れてきてくれて「さり」ありがとう  
いすは、鳥や植物の名前などについていぬいに教えてくれてありが  
とうございました。



力を込めて泥から草を抜く生徒

### 「水辺の楽校」で初の奉仕活動

## 八戸下長中の1年生220人

八戸市立下長中学校（新井山雅行校長）の生徒が一日、同市の馬淵川のヒートアップ「水辺の楽校」で泥上げや草取りなどの奉仕活動を行い、泥まみれになりながら作業に汗を流した。

ふるさとを愛する心を育ててもらったのが狙い。水辺の楽校での活動は今回が初めてで、一年生約二百二十二人が参加した。作業は、人数を生かし、右岸と左岸に分かれて開始。特定非営利活動法人（NPO法）「水辺の楽校」メンバーの池田光則理事長の指導を受けながら、持参したスコップやペットボトルで作った道具で泥をすくっていた。途中、ザリガニや魚を見つげる場面も。泥の中の「お宝探し」を楽しみながら作業に励んでいた。大平美穂さん（17）は「泥が雨で再び水路に戻ってこないように、少しでも遠くへすく

# 泥上げ「よっいっしょ」

い投げるのが大変、上村澤香さん（17）は「すくった泥が重いほどやりがいがある」と

目を輝かせ話していた。